

東京五輪に有機EL照明

米沢市長 遠藤氏に活用要望

2020年東京五輪・パ
リンピックで有機ELを
活用してもらおうと、山形
大工学部を中心に有機EL



遠藤利明五輪相(右)に「有機EL
あんどん」を説明する中川勝米沢
市長
||東京・永田町

の研究開発拠点化が進む米沢市の中川勝市長が12日、遠藤利明五輪相(衆院県1区)を訪ね、要望書を手渡した。中川市長は「有機ELあんどん」を持参し、関連施設を日本らしい明かりで彩ることを提案した。

要望書は「世界最先端の技術と地域文化が融合した製品で、世界中から訪れる人々をもてなすことが大会成功の一助となる」として▽東京大会の競技施設などへの有機EL照明の導入▽大会のPR活動に際し、公式エンブレムが入った「有機ELあんどん」の活用▽置賜地域のインバウンド(海外からの旅行)の推進

―を求めた。
同市内の企業などで構成する有機EL照明実用化研究会が企画したのは「YU

組織委員会に同趣旨の要望を行う。

KI ANDON(ゆき・あんどん)」で、白鷹町の深山和紙と有機ELパネルを組み合わせ、「強」「弱」「揺らぎ」の3種類のほのかな明かりを放つ。中川市長は「優しく自然に近い発光で、東京大会で活用してもらい、日本の伝統と先端技術をアピールしたい」と強調した。

要望書を受け取った遠藤氏は「東京大会は世界に向けて日本の最新技術を情報発信する場にもなる。会場では和紙を使用したいと考えており、前向きに検討する」と述べた。遠藤氏の仲介で、中川市長は近く大会